

## 2025年度入試【3年次編入学】

### 【小論文】

(法文学部 法経学科)

#### 注 意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は11ページである。解答用紙は3枚、下書き用紙は2枚である。  
指示があってから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところへ記入すること。
- 4 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙、下書き用紙は持ち帰ること。

1

熊本市の慈恵病院は、妊婦が身元情報を医療機関の一部の関係者のみに明らかにして出産を行う「内密出産」を実施し、2021年12月から2023年12月までで21人の赤ちゃんが内密出産を通じて産まれた。

2022年9月、国は、内密出産に関するガイドラインを策定した。その骨子は【資料1】の通りである。

当該ガイドラインが、内密出産によって産まれた子の出自を知る権利（注）の保障の観点から適切な内容を有するかどうかについて、下記の各資料およびあなたの知識を用いて、500字以上650字以内で論じなさい。

（注）自分がどのようにして生まれたのか、および自分の遺伝的ルーツはどこにあるのかを知る権利のこと。児童の権利条約7条1項は、子どもには「できる限りその父母を知る」権利が保障されると定める。生殖補助医療の進歩に伴い、例えば精子または卵子を第三者から提供されて産まれた子の場合などに問題になりうる。また、本間のように、何らかの事情で生物学的父母の身元等を知らない子についても問題になりうる。

【資料1】内密出産に関する国のガイドラインの骨子

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

（出所）「妊婦がその身元情報を医療機関の一部の者のみに明らかにして出産したときの取扱いについて」法務省民一第2000号・医政発0930第1号・子発0930第1号（2022年9月30日）

【資料2】新聞記事①

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出所) 朝日新聞 2023年6月5日朝刊 [一部抜粋、一部改変]

(注) 養子となる子どもと実親との親子関係を解消し、養子と養親との間に実の親子と同様の親子関係を成立させる制度。

【資料3】新聞記事②

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出所) 朝日新聞 2024年7月24日朝刊 [一部抜粋、一部改変]

(注) 自分で子どもを育てられない女性が、出生証明書に母親として名前を載せないことを前提に、医療機関で出産できる仕組み。

【資料4】新聞記事③

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出所) 朝日新聞デジタル 2024年4月4日 [一部抜粋、一部改変]

【資料5】トビアス・バウアー「法制化されたドイツの現状から内密出産を考察する」

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

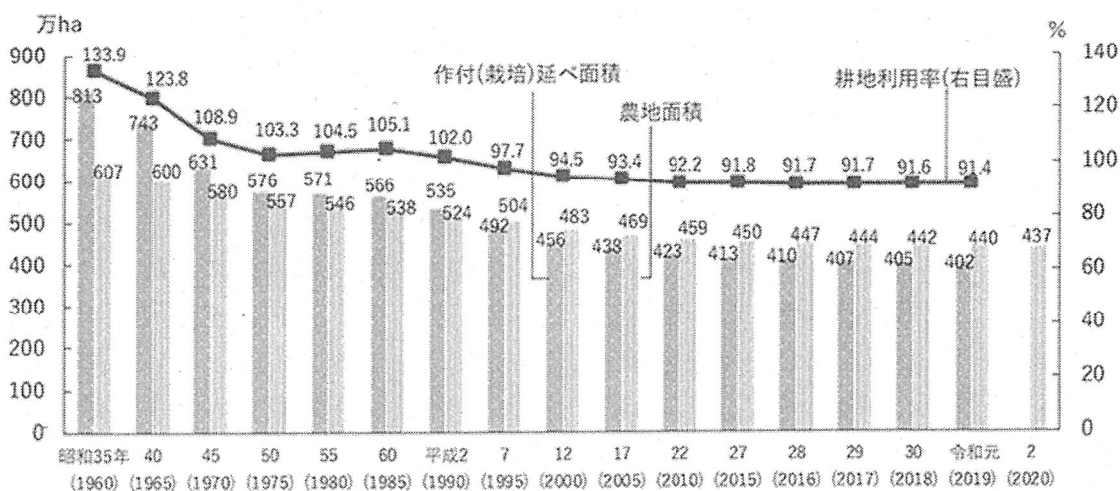
(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出所) 週刊医学界新聞 (通常号) 3512号 2023年4月3日 [一部抜粋、一部改変]

2 問1および問2に解答しなさい。

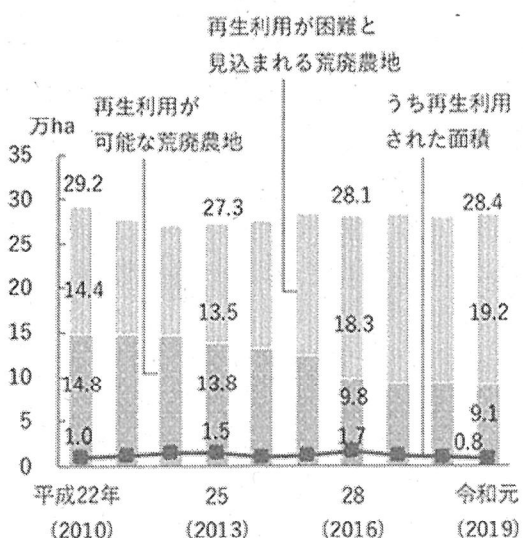
問1 以下の各図表をもとに、比較的大規模な農業経営体への農地集積の現状、および、農地の維持・確保の現状、さらには、その関係性について、200字以上、300字以内で述べよ。

図表1 農地面積、作付(栽培)延べ面積、耕作利用率の推移



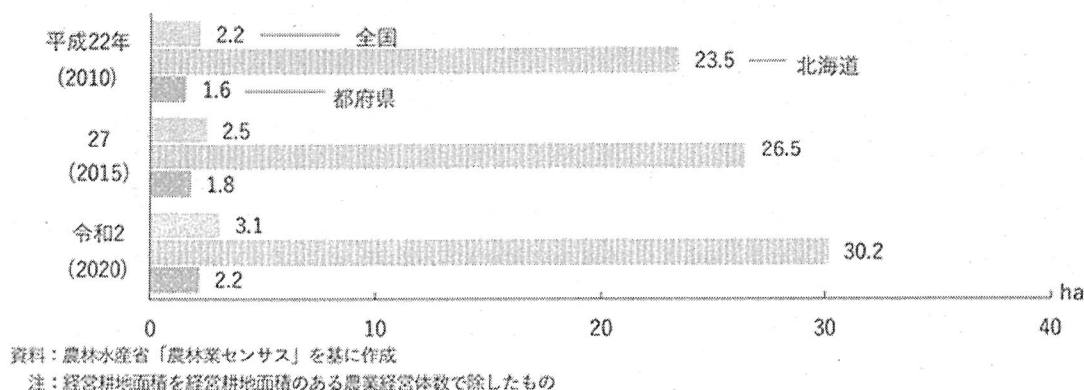
資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」を基に作成  
 注：耕作利用率(%) = 作付(栽培)延べ面積 ÷ 農地面積 × 100

図表2 荒廃農地面積の推移

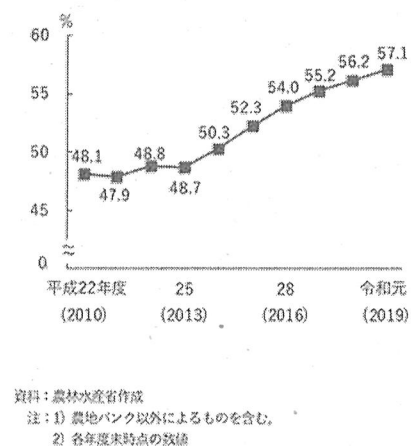


資料：農林水産省「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査」を基に作成  
 注：「再生利用が困難と見込まれる荒廃農地」とは、森林の様相を呈しているなど農地に復元するための物理的な条件整備が著しく困難なもの、又は周囲の状況から見て、その土地を農地として復元しても継続して利用することができないと見込まれるものに相当する荒廃農地

図表3 1 農業経営体当たり経営耕地面積



図表4 比較的大規模な農業経営体への農地集約率



図表5 地域別での比較的大規模な農業経営体への農地集約率

(単位：%)	
	農地集約率
全国	57.1
北海道	91.5
東北	56.6
関東	36.1
北陸	64.1
東海	37.8
近畿	32.0
中国 四国	28.7
九州 沖縄	47.4

資料：農林水産省作成  
注：1) 令和元(2019)年度末時点

(出所)『令和2年度 食料・農業・農村白書』[一部改変]



問 2

下記の各資料を踏まえ、農地の集積・大規模化や、農業の効率化の是非についての論点・対立点を整理したうえで、自らの意見にもとづいて、300 字以上 400 字以内で論じなさい。

資料 1

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出所) コメ輸出へ大規模化を促せ 大泉一貫・宮城大学名誉教授  
日本経済新聞 2024 年 10 月 22 日朝刊 [一部抜粋、一部改変]

資料 2

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出所) 農地規制撤廃で効率向上へ 本間正義・アジア成長研究所特別教授  
日本経済新聞 2024年7月5日朝刊 [一部抜粋、一部改変]

資料3

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(出所) 農民作家・山下惣一インタビュー  
朝日新聞 2013年5月16日朝刊、2019年2月16日佐賀全県朝刊 [一部抜粋、一部改変]